

陸前高田発

名古屋市企業との交流会



陸前高田市へ様々な支援を行っている名古屋市が主催しての企業交流会が陸前高田市で開かれました。交流会には名古屋市の河村市長と

陸前高田市の戸羽市長も出席し、名古屋市の12社と陸前高田市と大船渡市の32社が今後のビジネスの展開に向けて交流を深めました。会場には気仙地域の水産物や加工品の試食コーナーもあり、商品開発や商談につながる話が聞かれ、交流会は盛り上がりを見せていました。(5/28 ニュースエコー)

大船渡市発

「音の出る信号機」運用開始

昨年12月24日・25日のラジオでの放送をメインに展開された第36回ラジソンの「通じゃんせ基金」には、総額1170万円余りの募金が寄せられました。この基金で今回は大船渡・釜石・宮古の3か所に音の出る信号機が設置され運用を開始しました。このうち、大船渡市の大船渡小学校入口交差点に設置された信号機には、停電に備え自家発電機が設備されています。基金で設置した音の出る信号機はこれで県内111基となりました。(5/29 ニュースエコー)



釜石発

災害公営住宅など着工決定



これまで入札の不調が続いていた釜石市天神長の災害公営住宅と認定子ども園がようやく着工されることになりました。

この建設工事は、これまで3度入札が行われましたが資材不足などから不調に終わっていました。このため釜石市は工法や設計構造の変更を行って施工会社の決定にこぎつけたものです。認定子ども園は6月に、災害公営住宅は8月に着工されます。(5/30 ニュースエコー)

大槌発

さんりく元気ラジオ

(ワイドステーション内毎週水曜日放送)

今週はおおつちさいがいFMの湧水章代さんが、大槌町の「マスタープラン20年後のまちづくり」について伝えてくれました。これは文字通り20年後の大槌の将来計画ですが、それ以前に復興計画としての当面のまちづくりが課題です。今後パブリックコメントを集めながら、町民の子どもや孫たちの未来を見据えてしっかりと考えていかなければならないと話していました。また震災で亡くなった方たちの「生きた証プロジェクト」についても伝えてくれました。これは家族などを亡くした方たちの気持ちを大事にしながら、動画か、活字か、石碑にするのかなどを含め議論していくという事です。(6/4)

大槌発

旧役場庁舎の解体本格化



東日本大震災の津波で、当時の町長や職員40人が犠牲となった大槌町の旧役場庁舎の本格的な解体作業が始まりました。旧大槌町役場

は解体の是非を巡る議論の末、一部は震災遺構として保存し、建物の大部分は解体することになりました。建物内部のがれきを撤去する作業に続き、本格的な解体が始まりました。解体作業は7月一杯で終わる予定です。(6/4 ニュースエコー)

釜石発

釜石駅横にホテル建設

釜石市でJR東日本が来年春のオープンを予定するホテルの建設が始まりました。釜石駅とシープラザ釜石の間に建設されるのは「ホテルフォルクローロ三陸釜石」です。



鉄骨7階建てで客室総数は113室、最上階には展望大浴場も備えられます。沿岸の被災地では宿泊施設の不足が課題となっており、JR盛岡支社は「三陸観光の拠点として地域に貢献したい」と話しています。オープンは来年の春を予定です。(6/4 ニュースエコー)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122